

# パネルディスカッション

## 学識の立場から

東京大学大学院工学系研究科  
原子力国際専攻 高田 孝

定義 1 : リスク評価の結果及びその過程から得られる情報

(日本原子力学会標準 原子力施設の  
リスク評価基準で共通に使用される用語の定義 : 2018)

定義 2 : 確率論的リスク評価及び／又はその他のリスク  
評価、並びに種々のキーエレメントに関する評価  
から得られる情報、及びそれらの評価の過程から  
得られる情報。

(日本原子力学会標準 原子力発電所の継続的な安全性  
向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準 : 2019)

単に結果としての値だけでなく、評価の過程で得られる情報は  
全て「リスク情報」となる

(リスクは不確実さを内在するものであり、リスクに対する様々な  
視点 (観点) からの考察が大切)

## ▶ グレーデッドアプローチ

リスクに対する対応を洗い出した順番で全て実施することは非効率であり、現実的ではない

⇒ 定量的、定性的リスク情報を用いることで、対策に対する優先度について体系的に検討ができ、与えられたリソースで最大限の効果を得ることが期待される

グレーデッドアプローチには、PRAの開発度に応じたリスク情報の活用も含まれる

## ▶ リスクに関する共通認識（共通言語）

技術的なコミュニケーションにおいても、リスクに対する認識が一致しない（微妙にずれる）場合もある

⇒ 体系的なリスク評価から得られる（特に定量的な）リスク情報は、共通言語としてコミュニケーションの要となり得る